

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 特定非営利活動法人 かながわ難民定住援助協会

1. 事業の趣旨・目的

趣旨： 外国に繋がる児童生徒に対して、地域の諸学校との連携を図り、教科内容や宿題、その他学校生活に必要な日本語の底力をつけると同時に学習補講の支援が出来る質の高い人材を実践指導で育成して、メンバーの増強を図る

目的：「子どもの日本語学習室」を充実させて、より良い支援が出来る環境を作り、外国に繋がる児童生徒の学校生活を楽しく実りおおいものとするを目的としている。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月24日	当協会事務所	関口明子、 志田早苗 酒井達男 吉川昌利 櫻井弘子 與座徳子	上飯田子どもの日本語教室支援者の実践的研修事業について	開催日時、事業内容：事業日時、場所、教材の検討と研修内容、対象者についての報告。地域の学校との連携について確認。予算について、昨年比、大幅な縮小となったが実施することを確認。
3月22日	〃	〃	上記実践研修事業の終了報告について	実施期間、事業報告、学校との連携について、学校の校長先生をはじめ国際級担当、各学年の先生方が随時参加され、研修生のサポートをしてくださったことと、教材導入に当たってもアドバイスを頂き、成果を得た。

3. 講座の内容について

- (1) 講座名： 「上飯田子どもの日本語教室」支援者への実践的研修講座
- (2) 開催場所： 大和市立渋谷中学校・開放窓口・下和田の郷
 ア 講義 各日の目標と実践内容の確認と役割分担について、
 イ 実習 講師の指示に従って、学年別に担当を決められ教材に沿って、実践研修を受ける
- (3) 学習目標： 日本語に不自由を来し、教科内容が十分理解できない小・中学生への学習支援者を実践研修で育成する。
- (4) 使用した教材・リソース： 「くもんワークブック」、「かんじだいすき」、「論理エンジン」
- (5) 受講生募集：
 タウン誌
 当協会のホームページに掲載
- (6) 受講者の総数： 20人
 （出身・国籍別内訳： 日本 20人 ）
- (7) 開催時間数(回数)： 60時間 （全 30回）
 講義 （ 30回 ）、実習 60時間 （ 30回 ）
- (8) 参加対象者の要件：
- (9) 講座内容：

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	6月22日 17:00～ 19:00	2時間	20	「上飯田子どもの日本語教室支援者育成実践研修講座」 学年別ワークブック（算数・国語）と「かんじだいすき」を使い予習と復習をする。	関口明子 公益福祉法人 国際日本語普及協会 地域理事
②	6月23日	〃	〃	ワークブックの国語と算数と「かんじだいすき」のチェックと正解までのヒントの出し方、語彙の導入、音読、丁寧に書くように指導する。	〃
③	6月29日	〃	〃	〃	〃
④	6月30日	〃	〃	〃	〃
⑤	7月6日	〃	〃	〃	〃
⑥	7月7日	〃	〃	〃	〃
⑦	7月13日	〃	〃	〃	〃

⑧	7月14日	〃	〃	〃	〃
⑨	7月20日	〃	〃	〃	〃
⑩	7月21日	〃	〃	〃	〃
⑪	11月2日	〃	〃	書く力をつけるために「読み聞かせ」から作文に繋げていく漢字学習から構文力をつける低学年は課題図書「たぬきのじてんしゃ」「だいこんとにんじんとごぼう」の読み聞かせを。 高学年は課題図書「怪盗ムッシュ」のコピーを見なが 読み聞かせ。	〃
⑫	11月9日	〃	〃	低学年は本の絵を見ながら内容確認 高学年は本の内容確認を忘れないようにQ & A内容を書く。	〃
⑬	11月16日	〃	〃	低学年は本の最後の部分を見せないで、話の結末を考える。 高学年は本の犯人を予想させる。 理由を考える。ノートに書く。	〃
⑭	11月17日	〃	〃	低学年は最後の部分を書いて見る。 高学年は解決編と一緒に音読する。	〃
⑮	11月24日	〃	〃	低学年は結末を見せ、感想を書く 高学年は内容確認。	〃
⑯	11月30日	〃	〃	低学年は題名、作者などと、あらすじ、感想をノートに書く。 高学年は自分の考えた犯人と違ったかどうかを確認する。	〃
⑰	12月1日	〃	〃	低学年は原稿用紙で作文の清書の練習をする。 高学年は犯人を知った感想などをノートに書く。	〃
⑱	12月7日	〃	〃	低学年は作文の清書と読みの練	〃

				習。 高学年は原稿用紙に作文を清書する。	
①9	1 2 月 7 日	〃	〃	全学年、作文の読みの練習	〃
②0	1 2 月 8 日	〃	〃	全学年、作文発表会	〃
21	平成 24 年 2 月 8 日	〃	〃	どっかい・さくぶんトレーニング 課題図書「論理エンジン」 全学年課題文を音読したり、しっかり読んだりする。ステップ 1 では全体を把握する。ステップ 2 ～ は文章をしっかり読む。 ステップ 5 では総合的に学習する。	〃
22	2 月 9 日	〃	〃	低学年は本文を声を出して読む 高学年は課題文をじっくり読む。	〃
23	2 月 15 日	〃	〃	低学年はステップ 1 全体を把握する。話しの順序を考える。 高学年はステップ 1 の全体を把握し、あらすじをつかむ。	〃
24	2 月 16 日	〃	〃	全学年ステップ 2 ～ 4 では課題文をしっかり読む。 低学年は何について書いてあるか、どんなことが書いてあるかを考えながら、声を出して読んだ後、問題に答える。 高学年は課題文を清読して、内容をよく把握した後、問題を解く。	〃
25	2 月 22 日	〃	〃	〃	〃
26	2 月 23 日	〃	〃	〃	〃
27	2 月 29 日	〃	〃	全学年ステップ 5 では総合的に学習する 低学年はお話の主人公の絵や図を描いたり、色を塗ったりする。 高学年は友だちの良いところを文章にして紹介しよう。	〃

28	3月1日	〃	〃	作文の書き方を学ぶ 低学年のテーマは『大切な人』『好きなこと』 高学年のテーマは『将来の夢』『将来になりたいもの、したいこと』	〃
29	3月7日	〃	〃	全学年 原稿用紙に作文の清書と読みの練習と台紙を貼る。	〃
30	3月8日	〃	〃	作文発表会	〃

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

受講生から後半になるに従って、研修内容の理論と実践が結び付けられるようになったと複数の授業記録にあった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

実践研修で対象生徒も多いことから、受講生は初めはどう指導していいのか、迷いがあったとおもうが、講師の指導を見ながら、実践的に研修ができたので、回を重ねるに従って、要領を会得し、対象生徒との信頼関係もできて、主体的に支援に関われるようになり、質の高い指導者研修が図れたと考える。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

(11) 事業の成果

連携している地域の小学校の先生方の熱心なご協力を頂き、充実した支援ができたので、支援者も対象生徒も楽しみながら、学習成果が上がったことが成果である。後日、同上の小学校の先生より、学校の授業にこの事業の成果が表れていますよとの報告があった。

① 他事業との連携

連携している小学校には教室のちらしで生徒への周知をして頂くと共に、申し込み受付の協力を頂いている他、同小学校の先生方は当教室授業に随時参加され、研修生のサポートをしてくださった。学校の先生方が見えると生徒のやる気が一層、高まるので助かる。又、教材導入についてもアドバイスを受けて実施した結果上記のと通りの成果があった。同小学校の熱心な協力で、我々地域との連携の絆が結ばれ、ボランティア研修生の定着も図られ、児童生徒に有効な支援が可能となった。

② 研修後の人材活用

今後も同事業の継続は必定なことから、実践研修現場での支援活動に従事してもらうと共に当協会のお他事業や地域への積極的な参加協力も促していく。

(12) 今後の課題

支援者は勿論、講師、補助者、コーディネーター、の継続的な人材の確保。

相変わらず、拠点の確保も厳しい状況が続いている。

財源の確保にも又、困難を来している。